

Scouting Ibaraki

ボーイスカウト茨城県連盟 参加隊・派遣団 報告書

第16回日本ジャンボリー
第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー

| 2013年7月31日～8月8日 会場：山口市阿知須・きらら浜一

特集号



第16回日本ジャンボリー(16NJ)は、7月31日から8月8日まで、山口県山口市きらら浜で開催され、本県連盟から参加隊6個隊(235名)と県連派遣団本部及び大会運営奉仕者36名が参加した。

参加隊の編成は、スカウト36名と引率の成人指導者4名、計40名を1隊として構成され、7月30日に県内各地よりバスで出発し、宮田俊晴県コミッショナーの引率のもとに18時間の長旅の疲れも見せずに7月31日の午前9時に全員が笑顔で会場に到着した。

スカウト達は早速、それぞれの野営サイトに入り設営を行った。
アルマジロSCに茨城6隊、キャメルSCに茨城3隊、ディアSCに茨城2隊、イーグルSCには茨城1隊と茨城4隊、ファルコンSCに茨城5隊が入り、各々割り当てられたキャンプサイトに、思いのこもったゲートと9日間の生活基盤となるテントや炊事場などを設営し、午後にはすべての茨城隊の設営が完了した。

※大会の会場は広大なため、サブキャンプ(SC)サイトとしてアルマジロやイーグルなどの動物や鳥の名前等がつけられたSCに配属された。

ひとつのサイトの大きさはドーム球場2個分ほどであるがどの隊もドーム型テントの為、広大な敷地にドームテントが整然と立ち並んだ風景はさながら新興テント村であり、ゲートだけが我家の目印との感があった。

7月31日の夜は新興テント村の景色に慣れないスカウト達の相当数が迷子になるという、ハプニングがあった。

8月1日の午後にはすべての隊の設営が終了し、開会式がアリーナで行われた茨城県連盟旗は茨城1隊の矢島右喬君が堂々と誇らしげに掲げて行進し歓声が上がった。

8月2日からはそれぞれの隊または班単位で参加するプログラムへの挑戦が行われた。

本県連盟が担当して提供するプログラムとしては、地球開発村(GDV)、文化の交差点(CRC)に、それぞれ東日本大震災の【液状化に関するワークショップ】及び郷土の筑波山をイメージした

【ガマの油売り口上】としたが、どちらもスカウトたちの好評を得た。



特に、【液状化に関するワークショップ】は、地元紙の山口新聞で大きく取り上げられたことは特筆に値する。(本誌の4頁参照)

実際にスカウトが砂の上に立ち簡単な衝撃で沈む体験や自分で支えていた棒が簡単に沈む体験は大きな驚きと感動を与えていた。

このほかにサイエンス(COS)が23プログラム、GDVに54のプログラムとCRCに48のアクティビティが展開されていた。

更には【ワイドゲーム】、【各種スポーツ】、【ゲームプレイ】、



県連旗を掲げて堂々と開会式を入場する水戸1団 矢島右喬君

【アート】など盛り沢山のプログラムが展開されていた。

また、場外プログラムとして山口県内の19の自治体へ出かけそれぞれに工夫されたテーマで、山口を味わった。各プログラムへの参加については「事前に決まっていた枠」内のいずれかが当日の朝、伝えられるというミステリックさはスカウトには好評で、指導者には辛いものがあった。

8月3日は広島ピースプログラムが行われた。広島平和式典には茨城3隊と茨城6隊が参加した。茨城県連

盟代表スカウトとして参加した茨城1隊の藤本佳奈子さんは「私は広島平和式典に参加して、昔の悲惨な体験を風化させないように何をすべきか考えさせられました」と述べておられました。

8月4日は文化交流の日で午前中は仏教、神道、キリスト教、イスラム教など、多くの宗派の宗教儀礼がおこなわれた。カトリックブースでは大阪のスカウトに宗教章授与式が行われていた。午後のアリーナショーの開始直前にジャンボリ会場は集中豪雨に見舞われた。すでに会場に到着した隊はワールドスカウトセンターに避難。アリーナに向かっていた隊はサイトに引き返した。茨城2隊はサイトに引き返すこととなったがサイトは激しい雨と風により、まず自慢のゲートが倒れ、次に右側倉庫のテントが倒れ、続いて左側倉庫のテントが倒れた。幸い、食堂フライやスカウトのテントは倒れなかったが水深10cm位となり、もう少しで、床上浸水となるところであった。



指導者はとても心配しての帰営であったがスカウト達は「雨が痛い事もある。こんな経験したことない」と喜色満面で、記憶に残る豪雨であった。しかし雨がやむと直ぐにアリーナに向かった。全部のスカウト見守る中、アクロバット飛行を皮切りにアリーナショーが始まった。

皇太子殿下は「世界各地のスカウトと交流し、国際的な視野を深め、地球上のさまざまな問題について考える機会にしてください」とお言葉を述べられた。

安倍首相、下村文部科学相のご挨拶に続いて、宇宙飛行士である野口先輩のスピーチには大歓声をあげて歓迎していた。代表スカウトのメッセージ、台湾、香港、バングラディッシュのスカウト、広島如水館中高校のチアリーディング、地元アイドル「山口活性学園」パフォーマンスが繰り広げられ、スカウト達のボルテージは最高潮に達した。

8月5日には各プログラムが再開されたが茨城3隊ではサイトの泥水の掻き出しに大わらわであった。泥水バケツリレーを楽しんでる風情はスカウト魂そのものであった。

茨城4隊は集中豪雨の時に50cm程の水に浸されたとの



皇太子さま



安倍 晋三 首相
(名誉大会長)



宇宙飛行士 野口先輩



ことで、隊を上げて濡れた物の洗濯と乾燥、シートの拭き上げを行っていた。テントを再設営するほどの被害を受けたが、スカウト達は元気で健康そのものであり、茨城のスカウトの凄さを見せてくれた。

8月7日は閉会式が行われた。夕日とともに始まり、各国のパフォーマンスの後、アジア太平洋地域(APR)スカウトジャンボリーの次回開催国であるモンゴル代表に世界スカウト旗が渡された。

更に、女性3人の歌手グループ「なついろ」のファイナルコンサートで会場は熱気に包まれた。

最後は大会ソングを肩組みながら合唱し友情を確認していた。

フィナーレは1000発の花火がキララ浜の夜空を焦がしてくれた。県連盟を初め多くの方々のご支援と引率指導していただいたリーダーの方々、更には大会運営等に当たっていただいた皆さんに精一杯の感謝の言葉を送ります。(J)



広島平和式典に参加して

私は、平成25年8月6日に第16回日本ジャンボリーの県連代表スカウトとして広島平和式典に参加してきました。

第二次世界大戦における原子爆弾投下という68年も昔の悲惨な広島体験を風化させないようにスカウトとして、市民としてこれから何をすべきかについて深く考えさせられました。

日立8団

ベンチャースカウト

藤本 佳奈子



CRC (クロスオブカルチャー) 茨城県連盟

今回茨城県の伝統芸能である、ガマの口上を体験するプログラムを実施した。参加スカウト(45グループ:約400人)達は、額に汗をかき、感情たっぷりに口上を熱演し、茨城県の伝統芸能を愉快地楽しんでいた。又、折り紙でカエルを作成し、御土産の金・銀のガマのマスコットを嬉しそうに持ち帰っていった。



閉会式での県連旗入場
筑西1団山本雅義君



GDV 地球開発村



8月4日付 山口新聞に掲載された 液状化のメカニズムを知る

地球開発村の中で震災に問題となった『液状化』のメカニズムについて知ってもらうプログラムを提供しました。砂と水の入った水槽に立ち、実際に液状化を体感した。また作成した実験モデルを通して、仕組みの理解を深めました。

参加者から『おおー！わー！』という驚きの声上がり、自分の住所地で調査したいと、エッキー(液状化モデル)を持帰るスカウトが多数いました。液状化は震災を体験をした茨城隊スカウトはもとより、多くのスカウトたちにも大変身近な体験プログラムとして好評を得ました。

液状化に関するワークショップ



ペットボトルの中の水と砂で液状化現象を体験するスカウトたち

* 茨城県連盟派遣団

大地震での危険性考える

ペットボトル実験で体験

地球開発村で環境をテーマに開催するボリスカウト隊(左)と、茨城連盟派遣団(右)の両チームが、液状化現象を体験するワークショップを開催した。ワークショップでは、砂と水を入れた透明のペットボトルを揺らすことで、液状化現象を体験する。参加者は、ペットボトルの中の水と砂が混ざり、液状化現象を体験した。また、液状化現象のメカニズムについて説明を受けた。ワークショップは、参加者の理解を深め、液状化現象の危険性を伝えることが目的である。ワークショップは、参加者の理解を深め、液状化現象の危険性を伝えることが目的である。

地球開発村で環境をテーマに開催するボリスカウト隊(左)と、茨城連盟派遣団(右)の両チームが、液状化現象を体験するワークショップを開催した。ワークショップでは、砂と水を入れた透明のペットボトルを揺らすことで、液状化現象を体験する。参加者は、ペットボトルの中の水と砂が混ざり、液状化現象を体験した。また、液状化現象のメカニズムについて説明を受けた。ワークショップは、参加者の理解を深め、液状化現象の危険性を伝えることが目的である。ワークショップは、参加者の理解を深め、液状化現象の危険性を伝えることが目的である。



文章は『山口新聞』より一部流用